

令和8年度第2回松戸市教育振興審議会

日 時 令和8年10月6日(火) 17:30～

場 所 松戸市中央保健福祉センター2階 集団指導室

次 第

1 議事

(1) 「令和7年度版 教育委員会の点検・評価報告書(案)」に関する審議

2 事務連絡

(1) 次回の会議について

(配布資料)

資料1

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P. 5～P. 20)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
1	14, 15	東葛飾地区教育委員会連絡協議会 (定期総会)	質問	活動報告がないので、欠席なのか。協議会の概要を見る限り重要な協議会なのでと感ずる。	P14～P19については、教育委員の活動報告書や各研修会のアンケートより抜粋して記載しております。令和7年5月13日の定期総会・研修会には、教育長及び3人の教育委員が出席しております。当日の研修会のアンケートについては、事務局が直接回収したため、記載するための資料がございませんでした。	教育総務課
2	15	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 (定期総会報告)	意見	担当委員の参加についてのコメントがあるが、委員に加え関係部署の職員は参加した方がいいのでは。	同協議会が教育長及び5人の教育委員で構成される教育委員会の相互の連絡協議を図ることを目的としているため、事務局職員への開催案内は出されております。	教育総務課
3	15	第1回教育長・教育委員研修会 (アンケート抜粋)	質問	「松戸市の授業時間に関するご指摘について」とありますが、どのような指摘があったのでしょうか。	「教師を取り巻く環境整備について」をテーマに学校の働き方改革の進め方を様々な視点から論じた講演でした。標準授業時数と学校が編成する教育課程の比較の話題で、標準授業時数を大きく上回ることがないよう各教育委員は指導・助言をされた、というものでした。	教育総務課
4	16	関東甲信越静教育委員会連合会 (総会)	質問	活動報告がないので、欠席なのか。協議会の概要を見る限り重要な協議会なのでと感ずる。	P14～P19については、教育委員の活動報告書や各研修会のアンケートより抜粋して記載しております。令和7年5月30日の定期総会・研修会には、教育長及び3人の教育委員が出席しております。当日の研修会のアンケートについては、事務局が直接回収したため、記載するための資料がございませんでした。	教育総務課
5	16, 17	市町村教育委員会研究協議会	質問	全6回のうち3回参加した記載があるが、3回程度の参加により目指す成果が達成されるのであれば、その点を記載したほうがよいのではないかと。見方次第で急慢と読み取られる恐れのある記載である。	この協議会は前期 (第1回～第3回) と後期 (第4回～第6回) に分かれており、前期・後期それぞれの中で1回ずつ参加可能なものとなっております。誤解を招く記載となっているため、次年度以降は参加条件についても追記いたします。	教育総務課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
6	30	歴史や文化に触れる機会の提供「出張ミニ展覧会」の開催	意見	「課題」で会場側の負担軽減・展示作業簡素化とあるが、問題とすべきことがあったのか？	会場側の負担としましては、他イベントとのスケジュール調整、展示準備のため休館日の対応（輸出入立会い・開錠）、展示に適したスペースの確保、展示中の安全管理（来場者、作品の見守り）など通常業務に無い対応があげられますので、各施設には引き続きご理解・ご協力をいただきながら事業を推進してまいります。	文化財保存活用課
7	31	子どもたちが多様な体験ができる機会の提供	意見	「成果」としてどの講座も満足度が高い結果とあるが具体的な数値をいれらうか。	今後は参加者アンケートの結果を反映してまいります。	博物館
8	31	子どもたちが多様な体験ができる機会の提供	意見	課題の記載は、成果に記載すべきではないか。そうすると、課題は何か。限られた定員かつ好評行事であるため、YouTube等を活用して、体験型コンテンツを発信する等の検討を多くの方に疑似体験をしてもらう工夫があってもよいと思う。	ご指摘の項目は成果且つ今後の課題の側面もあるため、このような記載としておりませんが、表記についてはご意見を取り入れたいと考えております。動画等コンテンツの配信につきましては、今後内容を鑑み、対応について考えてまいります。	博物館
9	35	特別展の開催	意見	「課題」として学芸員の不足と理解できている内容が書かれているが、「今後の方向性」で全然触れられていないのは？	特別展の開催が本施策の事業内容となっている為、今後の方向性についても来年度の特別展の事業内容を中心とした記載と致しました。令和8年度以降の点検・評価報告書の作成に当たっては、「課題」と「今後の方向性」の対応関係が分かるよう記載方法を見直し、より分かりやすい報告書となるよう改善いたします。	戸定歴史館
10	36	まつど吹奏楽応援団(楽器の寄附)による吹奏楽・管弦楽活動の支援	意見	(楽器の寄附について) 物価高の現在、寄付というよりもフリマサイト等で手軽に個人で楽器を売りに出す方が多いと思います。寄付に目を向けてもらうには、寄付した先で、楽器がどのように生かされているのかを目的とする機会も大切だと思います。例えば、寄付していただいた方には、小中合同音楽会や教育委員会主催の催し物等、1公演に招待するなど寄付した成果が見える取り組みも考えてみてはいかがでしょうか。	現在の取り組みとしてましては、寄附をいただいた方へ「旧徳川家松戸戸定邸」及び「博物館」の入館チケット及び児童生徒の感謝のメッセージを送付しております。いただいたご意見を参考にさせていただきます。音楽関係のイベントへの招待を検討いたします。	学校財務課
11	37	学びの拠点の機能の充実と整備（文化ホール）	意見	成果としては、利用者が増加しているものの、課題において、有効活用ができておらず利用者が限定的とある。その点、そもそも、活用方針が施設にあっていないのかと疑問に感じる。	文化ホールは、市民ギャラリー、生涯学習サロン、子育て世帯や青少年の居場所など多様な利用が進む一方、個別利用にとどまり、施設本来の目的である「文化活動の推進」との運動が限定的であると感じています。今後はクリエイティブラボの新設や社会実験を通じ、各機能を有機的に結び直すことで、市民の交流、創作、表現といった本施設にふさわしい文化的な学びの拠点を目指してまいります。	文化芸術創造課
12	38	家庭教育支援の推進	意見	(就労している保護者や外国籍の保護者の参加促進) 講座の内容が動画に残せるものは、アーカイブとして残しておき希望する保護者には限定配信等で視聴できるようにしてみたいかがでしょうか。参加した方も親返しが可能であったり、外国籍の方も翻訳機能で自分のペースで理解できるのではないだろうか。	講座内容を視聴者限定で動画配信することは、当日参加できなかった学級生への学習機会の提供や参加者が後から内容を振り返ることができるなど学びを広げる方法として有効であると考えます。一方で録画に必要な機材の準備や撮影、編集、配信に係る作業、配信環境の確保など、実施に当たっては一定の負担が生じます。家庭教育学級は学級生が自主的な学習の場として運営していることから新たな取り組みにより過度な負担が生じることが無いよう留意する必要があります。一方で、各家庭教育学級の状況を鑑みながら検討させていただきます。	社会教育課
13	40	市民の文化・芸術活動の充実と支援	意見	課題において、コロナ禍の影響に関する記載があるが、コロナの影響がほとんどなくなった77年度の課題の記載として適切だろうか。事実の記載にとどまっているので、他の記載を加えて課題が読み取れるとよい。	次年度より一部修正し、高齢化や団体の解散等現在抱えている課題を追記いたします。	社会教育課
14	43	山崎直子宇宙飛行士による天文教室の開催	意見	定員の3倍の申込があり、当日の定員130名に対して参加者が110名であった。抽選のままでよいのか。例えばライブの301会議室は抽選とし、外れた人も当日の空き次第で、ライブに参加できたり、近隣の会議室等でパブリックビューイングのような同時配信で参加できる工夫はできないのか。	現状の対応として、抽選時に次点を事前に定め、キャンセルがあり次第、順次繰上げ当選を通知しているほか、開催一週間前に当選者へリマインドメールを送信して当日参加率の向上を図っている。 令和7年度は当日にキャンセル又は参加予定人数の変更で参加者が110名となり、講演時刻まで確定人数が把握が難しい状況である。 講演後の質問コーナーで、山崎氏が質問する子どもたちの前に来て受答えをすることから、別室での対応や配信の技術的な課題等が考えられるが、より多くの市民が参加できる方法について、検討していきたい。	文化施設担当室

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
15	45	グローバル社会に対応できる教育プログラムの開発と推進 (言語活用科の推進)	質問	(ジョリーフォニックス学習について) ジョリーフォニックス学習は学習障害にも効果があると聞いたことがあります が、特別支援の分野でも導入されているのでしょうか。	ジョリーフォニックスは、単なる読み書きだけでなく、アクシオンや歌など多感覚を用いて学習を行いますので学習にまつぎがみられ音韻処理能力に課題がある子にも効果があります。本市においては、特別支援の分野に限らず、全ての学級でジョリーフォニックスを取り入れ、どの子にとっても効果的に学習出来るように努めております。	学習指導課
16	45	グローバル社会に対応できる教育プログラムの開発と推進 (言語活用科の推進)	質問	(言語活用科の推進) 施策1-4-1は「学習の基盤となる日本語・英語・情報活用能力等の能力を育みます」で、主要施策は「言語活用科の推進」「外国語科の授業改善」「主体的・対話的で深い学びの実現」「教育DX」の4本である。施策を実効性あるものにするためにはそれぞれに展開するのではなく、例えば言語活用科と情報活用は横につながって考えるなど、必要があると思う。今後の施策の展開は、どのように考えられているのか。	言語活用科につきましては、言語能力と情報活用能力を一体的に育むという視点をもって、内容の改善に努めております。今後につきましても、次期学習指導要領の方向性を踏まえ、言語活用科等の教育プログラムの開発・推進に努めることにも、言語活用科の学びの価値や魅力の積極的な発信を進めてまいります。	学習指導課
17	46	小中学校における外国語科の授業改善	意見	実施状況から、主な対象から児童生徒を削除したほうが良いと感じた。	実施状況には教職員を対象とした取り組みが主に示されておりますが、本施策は、授業改善を通して児童生徒の学びを深めることを目的としたものです。このことから、取り組みの担い手である教職員に加え、その成果が還元される児童生徒も主な対象としております。	学習指導課
18	46	小中学校における外国語科の授業改善	その他	今後の方向性の欄に、“実授業改善”とあるが、どのようなことか。	小中学校で学習した英語表現や語彙、音声に関する学びと、ジョリーフォニックスを通して身に付けた文字と音を結びつける力を、中学校の英語の授業にどのようにつなげていくかを検討しながら、小学校から中学校への学びの連続性を意識した授業改善を進めていくということです。	学習指導課
19	47	総合的な学習の時間での学習の切り口とした「主体的・対話的で深い学び」の実現	意見	実施状況から、主な対象から児童生徒を削除したほうが良いと感じた。	実施状況には教職員を対象とした取り組みが主に示されておりますが、本施策は、授業改善を通して児童生徒の学びを深めることを目的としたものです。このことから、取り組みの担い手である教職員に加え、その成果が還元される児童生徒も主な対象としております。	学習指導課
20	47	総合的な学習の時間での学習の切り口とした「主体的・対話的で深い学び」の実現	質問	”総合的な学習の時間実践発表会”は、時間は短いですが、参加校の実践が共有される良い学び合いの時間になっている。一方で、参加校の顔がほとんど見えないという状況はなっておらず、一部の学校にとどまっているように思う。市全体の総合的な学習の時間における”探究学習”の状況はどのようになっているか。	探究学習については、研修会や要請訪問において指導をしております。また「探究的な学び」「総合的な学習の時間」をテーマとし、中学校3校を研究指定校としております。小学校でも総合的な学習の時間を校内研究のテーマとしている学校においては、探究のプロセスを意識した授業研究会等が行われております。実践の横展開を目指し、研修時間の確保や総合学習主任研修会等での情報共有を進めておりますが、今後もさらに探究学習の充実に向けて取り組んでまいります。	学習指導課
21	48, 49	教育DXの推進	意見	「事業内容」と「実施状況」が対応していないため分かりづらい。	本事業は複数の課が連携して実施しているため、「事業内容」については課ごとの取組を記載しました。一方で、実施に当たっては課を横断した対応が必要となることから、「実施状況」は事業全体の取組として記載しており、その結果、「事業内容」と「実施状況」の対応関係が分かりにくい記載となりました。令和8年度以降の点検・評価報告書の作成に当たっては、「事業内容」と「実施状況」の対応関係が分かるよう記載方法を見直し、より分かりやすい報告書となるよう改善いたします。	学校施設課・学習指導課
22	48, 49	教育DXの推進	意見	教務支援システムの整備、児童生徒や教員が使用するタブレット端末の整備に尽力いただきたきありがたく思っている。 先日の大雨の際、「松戸市の安心・安全メール」の内容を、学校から保護者へ流してほしい」という依頼があった。可能な範囲で書いてあったが、実情としては、どこの学校も対応した。対応しなければ、「A校はやっていないのに、B校はやっていない…」ということになってしまう、対応せざるを得ない。前回のケースは緊急の対応であることは理解しているが、気候状況の変化に伴い、千葉県においてもうこういった豪雨が今後も予想されるのであれば、市から直接保護者へ連絡をする方法について、進めて欲しい。	市教育委員会から、市内小中学校の保護者に直接連絡をできるようなシステムの導入を検討しており、予算要求をする予定です。	学務課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
23	48, 49	教育DXの推進	質問	「成果」の部分で「特に、他者と考えを共有しながら学びを深める協力的な学習が進展している。」とある。具体的にどのような事例があり、「進展」をどのようにとらえているのか。また、「課題」にある「活用」の内容や深度に差がみられ」「思考の進化につながる活用にはばらつきが」に対して、具体的な改善の指針を伺いたい。	一人一台端末を活用し、即時的に他者の考えを参照することにより、自身の考えを修正したり、視野を広げたりする姿が見られています。授業の主な展開の部分だけに限らず、導入場面の簡単な意見共有や授業のふりかえりの共有も行われています。「進展」とは、「形式的な協働にとどまらず、教員が協働することのねらいを意識した実践を行っている」と捉えています。課題に関しては、一人一台端末の活用が進んでいる学校の事例を周知したり、学校間で授業を見えながら活用を進めてまいります。	学習指導課
24	48, 49	教育DXの推進	質問	(情報活用能力) 関連する、学びのまどモデル1～4-1の施策には、「認知心理学の視点から、学力向上にアプローチします」という記述があるが、これはどの事業で実施されているのか。	令和2年度から4年度にかけて、教育企画課及び教育政策研究課において、生涯にわたって学び続けられる自立した学習者の育成を目指し、認知心理学の視点からの指導方法について研究を行ったものです。対象校は、令和2年度に第五中学校、令和3年度に根本内小学校、栗ヶ沢小学校、目の花小学校、栗ヶ沢中学校、根本内中学校、令和4年度に根本内小学校で実施しました。各年度に報告書を作成するとともに、研究成果を市内全校に周知しており、一定の事業効果を実現したものと認識しております。このため、本事業は令和4年度をもって終了し、令和5年度以降は実施しておりません。	教育政策推進課
25	50	「自分の人権を守り、他者の人権を守る」実践行動ができる子どもの育成	意見	成果から課題へのイメージがしやすい。まずは学校、次に家庭と人権意識の波及を期待したい。	今後、学校生活全般において人権意識を育てていくとともに、地域・家庭を教育活動に取り込んでいけるよう努めてまいります。	学習指導課
26	50	「自分の人権を守り、他者の人権を守る」実践行動ができる子どもの育成	質問	成果として「授業内での活用が見られた」とありますが、これは5年生を対象として人権に関する授業が行われたということでしょうか。また、具体的にどの程度の割合の学校で、そのような人権授業が行われたのか、お分かりになりますでしょうか。	人権についての学習は学校における全学年の全教育活動において行われるものであり、年間35時間行われる道徳の授業を例にとると、小1から中3までのすべてにおいて人権に関する授業が行われます。とりわけ、5年生の道徳の教科書において「子どもの権利条約」について取り上げられていることから、それに合わせてリーフレットを作成・配付しています。12月1週目の人権週間と合わせて配付・授業展開をすることで、「人権」そのものの意識醸成を推進しています。	学習指導課
27	50	「自分の人権を守り、他者の人権を守る」実践行動ができる子どもの育成	質問	課題である学校や社会全体への発信については、大いに同意いたします。一方で、リーフレットの配付などだけでは、発信の広がりや限界があるようにも感じます。時代に応じたICTやSNSの活用なども、今後の発信方法として視野に入れていらいっしやいまいですでしょうか。	最近は学校も手紙等のデジタル化が進んでいます。保護者にもデジタルでの配付が可能な場合は、推進することを検討していきたいと思いますが、市SNSの活用は現在のところ考えておりません。	学習指導課
28	52	防犯、防災、交通安全等の発達段階に応じた学校安全指導の充実	意見	スクールガードの担い手不足という記載がある。実情としては確かにそうなのだが、子どもの安全を守ることについては、市民安全という観点から進めることが重要だと思う。他部署との連携についてはどうなっているのかなということを感じた。	市民安全という観点から日頃より、市民安全課と連携を取りながら情報共有している。市民安全課は防犯協会の事務局を担っているが、防犯協会の方のほとんどはスクールガードとしても活動いただいている。また、今年度、スクールガード等の活動に同行し、具体的な場面に応じて指導助言をしながら、各学校を巡回したり地域のつなぎ役になったりするスクールガード・リーダーを配置する予定である。人選等にあたり、警察や町会といった他機関と連携をして行っている。	学校保健安全担当室
29	53	体力向上のための指導技術の向上と環境整備	意見	「成果」のところで数値が入っているほうが明確になる。	数値が入っている方が明確になるかと思いますが、「体力」は新体力テストのみで判断することが難しい部分がありましたので、令和8年度は体力向上を図るために教職員の指導力向上に向けた内容といたしました。	学習指導課
30	53	体力向上のための指導技術の向上と環境整備	意見	成果において、使用禁止遊具の撤去率を記載し、課題において未達成の遊具に対する対応を記載したほうが良い。水泳授業に関する記載がなく、水辺の事故から身を守る手だてが家庭任せになっっていないか心配である。その点、水泳に代替する取り組みについて、記載があるとうい。	100%の撤去を目指しておりますが、修繕を含め多数あり、今後5年間かけて危険な遊具や体力づくり備品の撤去を進めてまいりますので、令和7年度においての撤去率の記載が難しい状況でございします。水泳授業については、ろ過機の経年劣化等により、自校のプールが使用できない場合は、民間施設等のプールを使用し、学習の場を提供しております。しかしながら、直前に使用ができなくなった場合は、民間施設委託の提供が難しいため、座学にて水泳における「事故防止に関する心得」について学習を行うこととしております。	学習指導課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
31	55	小中学校給食の安全安心な配膳環境の整備	意見	事業内容の最初の2行は、目指す成果/目標に関する記載と理解してよいか。	そのとおりです。	学校給食担当室
32	56	ビジョナリーラボの立ち上げ準備	質問	現場では、「ビジョナリーラボが立ち上がり」が今後どのように研修に反映されていくのか、見えない。当事者となる教員にはどのように周知し、どのようなことが行われていくのか。	令和7年度は教員研修のあり方を探るため、先進的な教育実践を行う自治体への視察を実施しました。そこで得られた知見をもとに、令和8年度は、既存の研修や校内研修を活用しながら、対話や省察を重視した教員研修の試行に取り組んでおります。現在は、対象校への校内研究の伴走支援や研究主任研修会において、「主体的とは何か」「自ら学ぶとは何か」といった教育の相対に関わるテーマについて、本質的対話を通じて学びを実施しているところです。今後は、その実践の成果や課題を整理しながら、研究主任研修会など既存の研修体系へ反映していくことを考えております。具体的には、従来の講義中心の研修だけでなく、参加者同士が教育の本質的な問いについて対話したり、自身の実践を振り返ったりする研修の要素を取り入れていくことを想定しております。また、校内研究の伴走支援で得られた知見についても、市内の学校へ共有し、各学校の研究協議や校内研究の充実につなげてまいります。このように、本事業で得られた成果を一部参加者だけに留めるのではなく、本市全体の教員研修の改善につなげていくことを目指しております。	教育政策推進課
33	57	図書館整備計画の見直し	意見	62頁までの図書館の記載に横断する意見です。施設の開館時間延長、巡回図書貸出の工夫が読み取れる。高齢者や障害者へのアウトリーチにつながる取り組みの検討がさらに進めばよいと思う。民間(町の商店等)に協力してもらい、気軽に図書館の貸し借りができる拠点を作る等の工夫ができないか。他の自治体の取り組みも気になる。蔵書を活用する手段が多様であるように思う。	図書館整備計画及び各種関連計画との整合性を図りながら、今後の社会の変化も見据え、他市の様々な取り組みも参考にし、より質の高いサービスの提供に努めていきたい。	図書館
34	59	図書館資料の充実	意見	目指す成果/目標において人口40万人以上の自治体を統計の基準にしているが、人口50万人以上を基準にすべきでは。策定年度の事情で変更できない記載であれば、他の記載でフォローがあるように。	全国の公共図書館状況と比較する際、利用している日本図書館協会発行の「日本の図書館 統計と名簿」で、松戸市は人口段階別で「40万人以上の自治体」として扱われていることによりですが、ご意見もかまへ、今後の市の人口の推移をみながら検討してまいります。	図書館
35	63	千駄堀地区3館連携文化交流事業の推進	意見	21世紀の森と広場の利用者は数年前に比べると増加している。3館の連携をさらに進め、魅力ある文化的なイベントを推進することで、松戸の魅力の向上につなげてほしい。	多くの方にご来場いただけるように、各館主催事業に相互に連携、協力してまいります。	博物館
36	66	学区の適正化および学校選択制の検証	意見	学区の適正化は、学校が地域と密接に関わっていることから、たいへん難しい課題であるのかと思う。これに関しては、市民一人一人の立場や考え方の違いから、全ての方に納得のいく形というものが取りにくいものの一つなのかなとも思う。変更が生じる場合は、その必要性等について、しっかりとした裏付けをもって、関係の学校や地域住民に丁寧に説明していく必要がある。令和8年度においても、そのように進めてくださっていると認識している。よろしくお願いいたします。	通学区域の見直しについては、地域との関わりも深く、様々なご意見があると認識しております。そのため、変更にあたっては、その必要性を十分に検討した上で、関係する学校や保護者に加え、地域関係者に丁寧に説明していくことが重要であると考えております。今後におきましても、こうした考えのもと、必要な手続きを踏まえながら、関係課と連携しながら対応してまいります。	学務課
37	67	まつど日本語指導システムの改革	質問	多様なニーズへの教育への対応は、新たに振興基本計画でも大きな目標の一つである。増え続ける日本語指導を必要とする児童生徒への対応として、「教育課程の中に日本語指導を位置づけることができた」とあるが、その内容と今後の方向性を伺いたい。	『日本語指導を必要とする児童生徒一人一人の状況に応じて、「特別的教育課程」を編成し、学校の教育活動の一環として計画的、継続的に指導を行う』ということとです。にほんごルームや通級による指導では、学校生活や教科学習に必要な日本語を段階的に指導するとともに、学校の情報共有を図りながら在籍学年での学習につなげております。今後も、一人一人の状況に応じた指導体制の充実を図ってまいります。	学習指導課・教育政策推進課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
38	67	まつど日本語指導システムの改革	質問	日本語教育推進連絡会議では、どのような成果と課題・今後の方向性が示されたか。	日本語教育推進連絡会議では、日本語教育に携わる学校、関係団体、行政等がそれぞれ立場から日本語教育の取組状況や課題を共有することで、市内の現状について相互理解を深めることができました。 外国人住民の増加に伴い、日本語教育を必要とする児童生徒の増加が見込まれる一方、日本語ボランティア等の指導者不足や高齢化、プレスクールへの送迎上の制約など、支援を継続して受けるための体制に課題があります。 また、日常会話の習得だけでなく、教科学習に必要な日本語や漢字の読み書きの習得、受験や高校進学後を見据えた継続的な支援、学校と保護者のコミュニケーションなど、児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援の充実も求められています。 今後も連絡会議を活用し、各機関・各団体が有する取組や指導方法、教材等の情報共有を一層進めるとともに、学校・行政・日本語教育関係団体の連携を強化し、児童生徒の成長段階に応じた切れ目のない日本語を学ぶことができる環境の充実を図ります。	学習指導課・教育政策推進課
39	67	まつど日本語指導システムの改革	意見	「事業内容」の項目に対して「実施状況」に記されていないのは実施できなかったということ？	実施状況に記載のない事業内容につきましても、実施しているものや現在も継続して取り組んでいるものがございます。そのため、記載がないことにより実施できなかったということではございません。今後につきましては、実施状況や進捗がより伝わりやすくなるよう、記載内容の工夫を検討してまいります。	学習指導課
40	67	まつど日本語指導システムの改革	質問	松戸市のいたるところで外国人の方が増加していることを日々感じている。外国人居住者の増加は、以前は一部の地域のものでとされ、自治体単位で個別の施策を講じてきたが、今は国全体で考えるべき課題との方針が出されている。国がこれから行っていく施策と現在の松戸市の施策はどのように関連づけていくのか。	本市が進めているプレスクール、にほんごルーム、通級による指導を基盤として、国や県の制度、教材、研修、財政支援等を活用し、それぞれの取り組みの充実につなげてまいります。そのうえで、児童生徒の日本語の習得状況や学校現場の実情を踏まえながら、指導体制を継続的に検証、改善してまいります。	学習指導課・教育政策推進課
41	68	幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ	意見	課題に「各校が幼児教育の理解を進め、スタートカリキュラムを作成する必要がある」とありますが、これはとても大切なことだと思います。一方で、送り出す側である幼児・子ども園においても、小学校教育への理解が必要だと感じます。小学校だけでなく、幼児・子ども園と小学校の双方が協力して進める、松戸市独自のスタートカリキュラムに期待しております。	幼児教育と小学校教育の円滑な接続を実現するためには、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校が相互に理解を深め、連携していくことが重要であると認識しております。現在、幼児教育課と保育課との連携・情報共有を行うとともに、子供の育ちや学びの連続性を意識した取り組みについて共通理解を図っておりま。今後は松戸市版スタートカリキュラムの活用を通して、幼児小が協力しながら子供の学びの連続性を高めてまいります。	学習指導課
42	68	幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ	意見	現場の肌感覚として、新入生の学校生活への不応が、変わってきていると感じている。不応の理由が、学校が嫌とか友達がかではなく、何か別のものになっている。おそらく子供自身も何が原因かわからず、「パパがいい」「ママがいい」という言葉になって表出するケースが多いと感じる。現場と行政の知見により、こうした状況が少しでも改善していければと思っています。	近年、新入生の学校生活への不応については、その背景や要因が多様化しているものと認識しております。子供たちが安心して学校生活を送ることができるよう、幼児期の育ちや経験を小学校教育へ円滑につなげることがますます重要になってきております。今後は幼児教育課・保育課と連携をし、現場の知見を共有しながら、幼児小の連携や松戸市版スタートカリキュラムの活用を進め、円滑な接続と連続性のある学びの実現に努めてまいります。	学習指導課
43	69	効果的なスタッフ派遣事業の推進	質問	各学校にどのような人材を派遣し、2つの成果(自律的学級経営力の向上・学習意欲の向上)につながったのか。	特色ある学校づくりに向け、教員免許を保有する人材を中心に各校1名ないし2名を配置し、主に教科指導における少人数指導(T2)や不登校支援にあたっている方と連携し、主として配置による成果として、第一に、授業におけるきめ細やかな指導や個別のサポートが充実したこと、児童生徒の学習意欲の向上につながっており、また、教員が抱える指導上の負担や児童生徒への対応について複数の目で多角的に観察できることから情報共有の学習状況を丁寧に見取ることができたと、学校全体として指導体制に工夫やゆとりが生まれ、学校課題の解決や組織的な教育活動の推進といった自律的学級経営力の向上にも寄与していると感じております。	学習指導課
44	69	効果的なスタッフ派遣事業の推進	意見	市派遣の人材(スタッフ、特別支援関係、日本語指導、スクールアシスタント等)は、学校運営に大きく関わってくださっている。引き継ぎの支援・対応をお願いします。日本語指導の重要性が高まっている。	にほんごルーム設置の拡充を目指しております。今後も、「にほんごルーム」には日本語指導補助員を配置し、日本語指導の充実を図ります。	学習指導課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
45	70	学校教育の専門的事項に関する指導体制の充実	質問	実施状況に記載のある情報収集とは何か。また、喫緊の教育課題とは何か。	ここでの情報収集とは、単なる見学や資料収集ではありません。自校の課題を解決し、指導の質を向上させるための具体的な知見やノウハウの獲得を指しております。先進的な実践に触れることで、教員の指導力向上や学校改善への具体的な手がかりを得ることを目的としております。	学習指導課
46	71	学校図書館の充実	質問	課題「学校司書の定員を増やせていない」とありますが、なぜですか。	学校司書の増員は学校図書館の充実に直結いたします。学校図書館が充実すると、児童生徒が多様な情報に触れる機会が増え、読書習慣・読解力・情報活用能力が育ちます。さらに、豊かな想像力や他者を理解する心を養い、主体的に学び続ける姿勢の形成を支えるという点において、学校司書の果たす役割は大変重要であると考えます。司書の増員は急務であり、継続して予算要望を行っているところでございますが、市の財政状況もあり、増員につながる予算措置には至っておりません。理想と現実の狭間で大変苦慮しておりますが、現在の配置状況の中で最大限の工夫を図れるよう努めております。	学習指導課
47	71	学校図書館の充実	質問	実施状況：学校司書の定員数増を進めた。→課題：学校司書の定員数を増やせていない。という記述がある、結果として定員が増やせなかった、その要因はどこにあるのか。	学校司書の増員は学校図書館の充実に直結いたします。学校図書館が充実すると、児童生徒が多様な情報に触れる機会が増え、読書習慣・読解力・情報活用能力が育ちます。さらに、豊かな想像力や他者を理解する心を養い、主体的に学び続ける姿勢の形成を支えるという点において、学校司書の果たす役割は大変重要であると考えます。司書の増員は急務であり、継続して予算要望を行っているところでございますが、市の財政状況もあり、増員につながる予算措置には至っておりません。理想と現実の狭間で大変苦慮しておりますが、現在の配置状況の中で最大限の工夫を図れるよう努めております。	学習指導課
48	73、96	部活動の地域連携に関する方針の策定	意見	松戸には文化、スポーツともに松戸で育ち、才能を発揮している方々が多くいます。地域展開を模索するにあたり、民間事業者への外部委託にしたいと考えています。松戸の人材を生かして発展につなげてほしいと思います。	本市にはスポーツや文化芸術など様々な分野で活躍する優れた地域人材がおります。先導自治体においては、地域人材バンクの整備や、地域クラブの指導者として地元で活躍する人材を積極的に活用する取組が進められているものと承知しております。本市におきましても、部活動の地域展開を検討する中で、民間事業者への委託等を行う場合であっても、本市の人材や地域の力を生かしながら、子どもたちの活動の充実と地域の発展につながる仕組みづくりを進めてまいりたいと考えております。	教育政策推進課・社会教育課
49	73	部活動の地域連携に関する方針の策定	質問	他市町村では、それぞれの方法で、部活動の地域展開が進められている。松戸市が目指す地域展開の方向性は、どのようになっているのか。また、進める上で障壁となっているのはどのようなことなのか。	国の示す方針を参考に、令和13年度までに休日の部活動を地域展開していくことを目指し、今年度は有識者や関係者による「松戸市学校部活動のあり方懇談会」を開催し、意見を聴取することとしています。地域展開にあたっては、指導者や受け皿となる団体の確保、予算措置、大会参加のあり方、保護者負担への対応など、多方面にわたる課題があります。これらを松戸市の部活動と地域の現状に合わせ、総合的に調整しながら進めていく必要があることが、最大の障壁であると認識しております。	学習指導課・教育政策推進課
50	73	部活動の地域連携に関する方針の策定	意見	課題において、課題が多岐にわたると記載は妥当か。課題に触れていない。	部活動の地域展開における多岐にわたる課題とは、例えば指導者の確保や、活動に要する費用負担のあり方、活動場所への移動手段や安全面の確保、教職員の間で役割分担に加え、部活動が担ってきた教育的意義や居場所としての機能をどう継承していくのか、などを指します。今後、具体が伝わる記載を心がけてまいります。	教育政策推進課
51	75	医療的ケア児等への支援の実	質問	松戸市は、全国に先駆けて先進的に医療的ケア児等への支援体制を進めてきている。現在課題となっていることは、あるか。それはどのようなことか。	・教育現場における医療的ケア児への自立に向けた指導支援について、学校教職員と共通理解を図ること。 ・医療的ケア指示書の内容について、主治医との連携。 ・医療的ケア終了に向けた保護者との合意形成。	特別支援教育課
52	76	学校における教職員の働き方改革の推進(学校現場の業務改善と多忙化解消)	意見	時間外在校等時間の短縮とメンタルヘルスの相関性が気になる。時間短縮が進む一方で職員のストレスが強くなっているのではないかと、本来の目的に沿った時間短縮であるとわかるとよい。	学校における働き方改革では、教職員が子供と向き合う時間を確保することが大きな目的の一つであり、単に時間外在校時間を短縮することではなく、教職員のやりがいがないなども踏まえながら業務の削減に取り組む必要があります。	学務課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
53	76	学校における教職員の働き方改革の推進(学校現場の業務改善と多忙化解消)	質問	超過勤務者の割合が減少傾向にあることは、喜ばしいことと感じます。一方で仕事を自宅に持ち帰っているケースがないのか気になります。そのような「持ち帰り仕事」についても実態を把握する調査は行われていますでしょうか。また、そもそも自宅に仕事を持ち帰れない(強制的に)環境整備についても、進められていますでしょうか。	市教育委員会として「持ち帰り仕事」の把握まではしておりません。各学校においては、職員が仕事を持ち帰らなくて済むよう成績処理の期間などに業務時間を確保する工夫をしています。市全体で一律に仕事を持ち帰ることを禁止することは難しいと考えます。	学務課
54	76	学校における教職員の働き方改革の推進(学校現場の業務改善と多忙化解消)	質問	学校における未配置の問題が課題となっている。課題：未配置があり、職員の意識改革だけでは現状を打開することが難しいため、学校・家庭・地域の連携を積極的に行う必要がある、とあるが、具体的にどのようなことを指すのか。	今年度4月から実施している「松戸市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」において、「学校の業務の3分額」を踏まえた業務の見直しとして、登下校の見守りなど学校以外が担うべき業務を定めており、地域や保護者に協力を求めていることが必要になります。	学務課
55	77	市立小中学校管理職、管理職候補の人材育成	質問	退職校長会が現役世代のキャリア教育に資する組織だと感じるが、校長以外の退職教員の組織はあるのか。どのような活動をしているのか。	校長以外の退職者の組織はありません。どのような活動をしているか、細かい活動内容は把握していません。	学務課
56	78	教職員(講師を含む)の指導力育成	意見	「実施状況」のところ、「事業内容」をそのまま記すのではなく、1年目～校、2年目～校。指導主事派遣～件のようにしたほうがよいのでは？	実施状況欄の記載方法につきまして、具体的な数値実績を示すことも分かりやすい方法であるかと存じますが、各事業につきましては、各年度における取り組みである「具体的な内容や性質」の評価・検証を捉えやすくするため、事業内容を中心に記載しております。今後につきましては、ご指摘いただいた視点も踏まえ、数値データ等も交えながら、より事業効果が伝わりやすい記載の工夫について検討してまいります。	学習指導課
57	78	教職員(講師を含む)の指導力育成	意見	課題に「自発的な受講環境の確保」とありますが、大学やその他の機関でも、オンラインで受講できるさまざまな講座が開かれています。教職員が自身の課題や関心に応じて、必要だと感じたときに気軽にアクセスし、学ぶことができる環境が整うことで、より自発的な受講につながるのではないのでしょうか。	教職員が自身の課題や関心に応じて必要な講座へ主体的にアクセスし、学ぶことができる環境を整えることは、自発的な受講を促進する上で極めて重要であるとの認識しております。研修奨励日を設け、他校の実践観察や校内研修に充てるための「時間の確保」を促しているところでございます。	学習指導課
58	78	教職員(講師を含む)の指導力育成	質問	成果に「教職員の指導力の向上に寄与した」とありますが、具体的にどのような項目で効果を測定しているのでしょうか。また、その効果を示す数値的なデータなどはありますでしょうか。	「教職員の指導力の向上に寄与した」との判断につきましては、一律の数値データとして測定・集計しているものはありません。しかしながら、指導主事や専門性の高い経験豊富な教職員が実際に授業を参観し、授業者に対して直接的かつ具体的な指導・助言を行うというプロセスを重視しております。このようないま実践的・個別的な指導を積み重ねることで、授業づくりの質の向上や指導方法の改善を図り、結果として教職員の指導力向上に寄与しているものと捉えています。	学習指導課
59	79	「ストレスチェック」を活用した教職員のメンタルヘルス対策の推進	意見	受検率が9割であること、高ストレス率が9.1%は全国平均よりも良好であるが、面接希望者が1名のみは極端に低い値と言えないか。ストレスチェックの主旨である「自己のストレスへの気づき」になるように、そして相談につながらない職場とならないように意識改革と制度改革が必要ではないか。	今年度、面接指導の実施希望を月の在校等時間が80時間以上の教職員だけでなく、職員自ら疲労の蓄積や心身の不調等で医師との面接を希望できる機会を毎月設けた。それにより面接に対し興味を示す教員が増え、問い合わせが増えている。また、医師への面接希望者は少ないものの、各学校の管理職が丁寧に聞き取って対応したり、業務改善を図ったりすることで、学校内で解決している事案が多く、数値として上がっていないこともある。今後についても、教職員が面接指導医の面接を受けやすい環境づくりを推進する。	学校保健安全担当室
60	80	始業前の児童への見守り	意見	課題に「利用児童が少ない学校があることから、潜在的なニーズの把握」とありますが、利用の多い学校と少ない学校との間で、どのような要因の違いがあるのかを検証することも必要ではないかと思いましたが、利用が少ない理由が、利用する家庭側にあるのか、あるいは受け入れられる地域側にあるのかによって、必要となる対策は変わってくるのではないかと感じます。	利用児童の多寡については、親の勤務形態など各家庭の状況に左右されるところが大きいと思いますが、各学校の駅までの距離や登校開始時刻の設定の違いに影響される部分もままあると考えます。今後、利用家庭と非利用家庭の二つの調査に役立てていきたいと思っております。	教育総務課
61	80	始業前の児童への見守り	意見	課題において、シルバー人材センター会員不足が課題と読み取れる。シルバー人材センター頼みでよいのか。退職教員などの人材が活躍できないのだろうか。	本事業の勤務時間が早期であることから、各校の近傍に住んでいて、早朝の時間帯に勤務可能な人材を確保する必要があること。また、地域人材の活用により学校を核とした地域力の向上を期待する観点からも、シルバー人材センターに人材確保の依頼をしております。今後、人材確保が困難な地域においては、既存のシルバー人材センターだけでなく、ボランティア活動等を活用した地域住民・団体の参画も検討して参ります。	教育総務課

「点検・評価報告書(案)」に関する意見・質問と回答 (P.21～P.102)

No.	ページ	項目	区分	内容	回答	担当所属
62	84, 85	児童生徒の健全育成を支える適切な生徒指導の推進 すべての子どもたちの居場所づくりを目指した不登校支援体制の充実	意見	「事業内容」と「実施状況」が対応していないため分かりづらい。	今後の調査においては、「実施内容」に対する「実施状況」が明確に確認できるよう、項目の整理や記載方法を工夫するなど、資料の分かりやすさの向上に努めてまいります。	児童生徒課
63	87	学校施設の老朽化対策の推進	意見	「今後の方向性」のところ。「事業内容」に対して「成果」で南部小学校を除いて計画通り実施したならば、方向性として「検討」はおかしい。工事に向けて具体的に進めたい、ではないか？	学校の長寿寿命化については、建設費の高騰などにより、計画立案時に比べ事業費が大幅に増加することが見込まれます。令和7年8月の「松戸市財政運営の基本方針」においては、事業の実施時期を再検討することとなりました。記載のとおり小金北小学校は設計委託等を実施いたしましたが、工事の予算計上は見送っておりません。以上のように、学校の長寿寿命化については現在、事業手法なども含めた再検討をおこなっていることから、方向性を「検討」といたしました。	学校施設課
64	87	学校施設の老朽化対策の推進	質問	8月の豪雨では、学校施設は雨漏りをはじめとする被害が多く発生した。学校施設の老朽化は深刻である。今年度長寿寿命化改修工事がストップしたようだが、今後の見通しはどのようなようになっているか。	学校施設の更新につきましては、それぞれの学校単位で個別に考えるのではなく、地域ごとの人口動態や都市機能、公共施設の配置、将来のまちづくりなどと関連付けながら考えていくことが重要であると認識しており、市長部局との連携を密にしながら、取り組みを進めてまいりたいと考えております。	学校施設課
65	89	創立50周年記念式典の開催	意見	課題と今後の方向性について、60周年事業に向けた課題などあれば、記載したほうが良いのではないか。	令和8年度に創立50周年記念式典を開催いたしました。60周年事業につきましては未定となります。(前回の記念式典：創立10周年)	市立松戸高校
66	91	第二外国語の授業の推進	意見	市立高校には、市として様々な支援を講じ、学校の改革が進展していることを感じます。第二外国語を選択する生徒も増加していることが伺われ、生徒の学び意欲の向上も見えとれる。例えば、このような生徒や国際人文学科の生徒を、夏季休業期間等に、学習指導課が実施している外国人児童生徒を対象とするブレスクールなどの補助に活躍していただけたらどうか。	学習指導課からのご依頼を受けた際は、生徒に周知し希望者を募りたいと存じます。	市立松戸高校
67	96	子どもたちのスポーツ、文化・芸術活動を支えるための地域の人材や団体との連携	意見	課題において、多岐にわたる課題を内包しており～の記載は妥当か。課題に触れていない。	多岐にわたる課題とは、例えば指導者の確保や、活動に要する費用負担のあり方、活動場所への移動手段や安全面の確保、教職員の間わり方などに加え、部活動が担ってきた教育的意義や居場所としての機能をどう継承していくのか、などを指しております。	社会教育課
68	102	松戸市教育振興基本計画「学びの松戸モデル」策定	意見	課題にもあるように、施策の着実な進捗管理が何よりも大切と考えます。「進捗管理の明確化」について、具体的な指示と実行をお願いしたい。	昨年度策定した「学びの松戸モデル(松戸市教育振興基本計画・第1期)」を着実に推進するためには、施策の進捗管理を適切に行うことが重要であると考えております。本計画に基づく施策や事業の進捗状況を継続的に確認しながら、点検・評価を通じて課題の把握及び改善を図り、計画を着実に推進します。	教育政策推進課